

豊坂小学校保護者 各位

幸田町立豊坂小学校長 本多 宣子

豊坂小学校教育診断アンケート結果及び分析等について

向春の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は本校教育にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、過日お願いしました学校教育診断アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。その集計結果をもとに2月15日に学校関係者評価委員会を開催し、委員の方から貴重なご意見を頂きました。ここに、アンケートの集計結果と委員の方から頂いたご意見をもとにした今後の学校運営のまとめをお届けします。よりよい豊坂小学校をめざして職員一同、一層の努力をしてみたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

A…よくあてはまる（そのように思う）
B…ややあてはまる（どちらかというとそのように思う）
C…あまりあてはまらない（どちらかというとそのように思わない）
D…まったくあてはまらない（まったくそのように思わない）

回答数	児童(4~6年)	191名
	保護者(全年齢)延べ	375名
回収率	児童	100.0%
	保護者	95.7%

対象	番	評 価	設 問	A+B
1 楽しい学校 ※ 増減は昨年度比				
児童	3	学校へ来るのが楽しい。		87%
保護者	3	お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている。		90%
児童設問はわずかであるが増加、保護者設問は横ばいの9割を維持した。この調査項目は最も重要な項目と捉え、児童が学校へ通うのが楽しいと思えるようにさらに努力していきたい。				

児童	4	元気にあいさつや返事ができる。		73%
保護者	4	お子さんは、あいさつや返事がよくできる。		83%
今年度、保護者設問は横ばいとなったが、児童設問が5パーセント減少した。これは、コロナ感染予防のためマスク着用、大きな声を出せないことが影響したと考えられる。今後は、この状況における「あいさつ運動」を工夫し、仲間づくり、学校づくりの原点であるあいさつの定着を図っていきたい。				

3 行事				
児童	5	学校の行事（スポーツ集会や発表会など）は、楽しく積極的に参加している。		93%
保護者	5	お子さんは、スポーツ集会、発表会、マラソン大会などの学校行事に積極的に参加している。		93%
コロナ禍により学校行事の中止や縮小のなか、今年度も児童・保護者設問ともに9割を超え、高い数値となった。今後も、児童が行事に積極的に参加できるように工夫・改善に努めたい。				

4 自治活動				
児童	6	委員会活動には、意欲的に楽しく参加している。		91%
児童	7	学級の係活動などに責任をもち、積極的に取り組んでいる。		89%
児童	14	自分の目標や学級のめあてをやりとげようとがんばっている。		88%
児童	15	学級に問題があったとき、みんなで協力して解決できる。		77%
今年度はどの設問もほぼ横ばいで、児童設問6は9割を超える数値となった。委員会活動に意欲的に参加すること、係活動に責任をもって取り組むことは、「生きる力」として大事なことである。児童の活動を支援し、自治力を伸ばすために、これからも教員の効果的な指導を工夫したい。				

対象	番	評	価	設	問	A+B
----	---	---	---	---	---	-----

5 授業

児童	8	授業は分かりやすい。				88%
児童	9	授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している。				49%
児童	10	授業では、友達の見や感想をよく聞くようにしている。				92%
児童	13	授業のふり返りや感想、日記などに自分の思や感想を進んで書いている。				78%
保護者	6	お子さんは、授業が分かりやすいと言っている。				83%
保護者	9	学校は、ドリルタイムや少人数指導・ティームティーチング（複数教師による指導）等により基礎学力の定着を図ろうとしている。				89%

授業について、今年度は児童設問8と保護者設問6が5、6%増加した。また、児童設問10と保護者設問9についても微増したが、児童設問9・13は減少した。この項目「話す・書く」言語活動の力を高めるために、さらに指導・支援のあり方を工夫していきたい。

6 体力チャレンジ

児童	11	体力チャレンジ（かけ足・なわとびなど）は、積極的に取り組んでいる。				80%
保護者	7	学校は、体力チャレンジや行事、授業等を通して体力の増強と健康の増進を図っている。				95%

児童設問は5%減少したが、保護者設問は横ばいと高い数値を維持した。これは、コロナ対策のために縮小したもののチャレンジタイム5分間かけ足の成果と受け止め、さらに積極的に取り組むことができるように活動のあり方を模索したい。

7 読書とスピーチ

児童	12	読書や読み聞かせの時間は楽しい。				86%
保護者	8	学校は、読書・読み聞かせ等を重視し、豊かな心を育てようとしている。				89%

児童・保護者設問ともに微減したが、9割近い数値で安定している。今年度はコロナ禍のためボランティアによる読み聞かせなど活動制限があったが、今後は感染対策をとりながら、朝の活動を充実させたい。

8 自信（自己有用感）

児童	17	勉強や運動、係・委員会活動、掃除、遊びなど学校での生活のなかで、自分には自信をもっているものがある。				82%
保護者	10	先生や学校は、子どもの能力や意欲を適切に判断し認め、子どもに自信をもたせようとしている。				90%

児童設問は2%減少したが、保護者設問は微増した。児童が自信をもつことができる手だてを見直し、家庭と連携してさらに支援にあたりたい。

9 悩み・いじめ

児童	18	いやなことを言われたりされたりして、長い間なやむことはなかった。				78%
保護者	11	お子さんは、いやなことを言われたりされたりして、長い間悩むようなことはなかった。				76%
児童	16	友達のいやがることはしないように、悪口は言わないようにしている。				95%

いじめを含めた意識調査である。児童設問16は9%と大きく増加した。また、児童設問18と保護者設問は微増し、8割に近づいてきている。今後、一層思いやりの心を育てることに努め、丁寧に対応をしていきたい。

対象	番	評	価	設	問	A+B
10 友達						
児童	19	自分が困ったりなやんだりしたとき、相談したり助け合ったりできる友達がいる。				92%
保護者	12	お子さんは、相談できたり協力できたりする友達が学校にしている。				85%
2年連続増加していたが、今年度は児童・保護者設問ともに微減した。さらに、自分のよさと仲間のよさを大切にする温かい人間関係づくりに力を入れていきたい。						
11 先生への信頼						
児童	20	自分が困ったりなやんだりした時、相談できる先生がいる。				71%
児童	21	わたしたちの気持ちを考え、がんばりを分かってくれる先生が学校にはいる。(担任の先生以外にいる場合でもよい)				76%
保護者	13	先生や学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれる。				88%
保護者	14	先生や学校は、子どものことについて気軽に相談できる雰囲気がある。				89%
保護者	15	先生や学校は、子どもの気持ちをよく理解し、認めてくれる。				92%
3年連続増加した児童設問20・21は減少したが、保護者設問13・14・15は微増し、9割近くの評価をいただいている。今年度、児童設問が減少したことを心に留め、さらに児童が相談しやすい関係づくりに努めたい。						
12 良い関係づくり						
保護者	18	学校は、保護者や地域の人たちと良い関係づくりに努めている。				95%
保護者設問は横ばいと、高い評価をいただいた。引き続き、保護者や地域の方々との良い関係に努めたい。						
13 安全・安心						
保護者	16	学校は、地震や風水害の場合について適切に対応し、安全・安心な学校づくりに努めている。				95%
今年度も微増し、9割を超える高い評価をいただいている。今後も避難訓練や災害時を想定した対応について見直し、緊急メール配信を工夫するなど安全・安心な学校づくりを推進していきたい。						
14 通信・お知らせ						
保護者	17	学校は、通信やホームページ等を通して学校の方針や様子がよく分かるようにしている。				95%
保護者設問は横ばいの95%と高い評価をいただいた。今後も、校長室だよりや学年通信等にて、教育目標や方針、活動の様子などを分かりやすく発信し、保護者との協働体制を強化したい。						
15 その他						
保護者	19	学校から出される通知表の評価は、納得のいくものになっている。				91%
保護者設問はほぼ横ばいで、9割を超える評価をいただいた。さらに、あてはまらない・あまりあてはまらないと回答された7%へ目を向け、説明責任に努めていきたい。						

アンケート結果と学校関係者評価委員会のご意見を踏まえた今後の学校運営について

① 全体

新型コロナウイルス感染症予防対策のために休校措置や教育活動制限があった本年度だが、全体としては良い評価をいただいた。今後も、さらによくするというスタンスで臨みたい。

② 楽しい学校

「学校へ来るのが楽しい」の設問でAまたはBを選択した児童はわずかであるが増加し、保護者は横ばいの9割を維持した。「学校の行事は積極的に参加している」の設問は、児童・保護者ともに93%と高い数値となった。また、「授業は分かりやすい」の児童設問は6%、保護者設問は5%増加した。児童が学校生活を充実していると感じる第一歩は、分かる授業であり、学校行事を楽しみに取り組むことである。今後もこの方向性を大切に、いっそう学校行事の充実と教員研修に努めていきたい。

③ あいさつ

本年度も代表委員会による「あいさつ運動」を継続したが、マスク着用・大きな声を避ける新しい生活様式のためか「元気にあいさつや返事ができる」の設問でAまたはBを選択した児童は5%減少した。あいさつと返事は、温かい人間関係づくりに欠かせない生活習慣の基本である。さらに、家庭との連携を図り、代表委員会の啓発活動と教師の指導を充実させ、あいさつへの意識を高めていきたい。

④ 教師への信頼関係

児童と教師との温かい信頼関係は、学校教育の底辺を支えるものである。保護者設問は、1~4%増加し9割近くの数値を得たが、3年連続増加していた児童設問「相談できる先生がいる」と「私を分かってくれる先生がいる」は減少した。児童が相談しやすい状況や子どもの頑張りを認める方法をさらに模索し、教師への信頼を継続して得られるように努めていきたい。

⑤ 自信（自己有用感）

児童と教師との温かい信頼関係は、学校教育の底辺を支えるものである。保護者設問はさらに1~4%増加し9割近くの数値を得られたが、3年連続増加していた児童設問「相談できる先生がいる」と「私を分かってくれる先生がいる」は減少した。児童が相談しやすい状況や子どもの頑張りを認める方法をさらに模索し、教師への信頼を継続して得られるように努めていきたい。

⑥ 自治活動

全学年が発達段階に応じた学級活動を行い、4年生以上は委員会活動も行っている。この取り組みに関する「自分の目標や学級のめあてをやりとげようとがんばっている」や「委員会活動には積極的に参加している」の児童設問は、ほぼ横ばいで9割近くの数値を維持している。仲間と協力して自分たちの生活をよりよくしようという姿勢は、社会生活の基礎となる大事な「生きる力」であるので、さらに手だてを工夫していきたい。